

## 1. 気象概況 (中野市長丘地区気象ロボット観測データによる)

月間	旬別	上旬		中旬		下旬		月間		特記・コメント
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
5月	平均気温(°C)	12.4	14.1	15.6	16.3	17.8	17.7	15.3	16.0	月間平年比-0.7°C (やや低)
5月	降水量 (mm)	10.0	15.5	29.0	19.3	45.5	20.3	84.5	55.1	月間平年比 153% (多)
5月	日照量 (h)	85.0	71.4	41.1	75.5	86.0	84.1	212.1	231.0	月間平年比 92% (やや少)

## 2022 5月気象ポイント

- ◆ 気温：最高気温 31.9°C (5/30) 最低気温 5.9°C (5/24)
- ◆ 降水量：※下旬平年比は、25.2mm多く経過。5/21 2.5mm、5/22 15.0mm、5/23 0.5mm、5/27 26.5mm、5/31 1.0mm観測。
- ◆ 日照量：※下旬平年比は、+1.9h多く経過。
- ◆ 夏日観測合計：計12日 (5/4 : 26.0°C) (5/5 : 27.1°C) (5/6 : 28.5°C) (5/7 : 27.9°C) (5/11 : 25.3°C) (5/12 : 28.4°C) (5/19 : 28.5°C) (5/24 : 26.0°C) (5/25 : 28.8°C) (5/26 : 27.8°C) (5/29 : 30.6°C) (5/30 : 31.9°C)

## 2. 生産の経過・病虫害発生状況・今後の対策

- ① 結実状況：プラム：貴陽結実不良、太陽一部結実不足、その他品種概ね良好。 もも：概ね良好。  
和梨南水：やや不良。 西洋梨：良好。 おうとう：佐藤錦は結実不足、その他品種は概ね良好。  
りんご：5/25 広域結実調査実施。果そう結実率 73% (昨年 49%) ふじはカラマツ (不受精) 散見。結実バラつきあり。  
一部園地で結実不足。その他品種は、概ね良好 (一部、ゴールド・秋映などで中心果の凍霜害あり)
- ② 生産基盤 (推定)：ぶどう 346ha (昨対+3)・りんご 150ha・もも 83ha・和梨 12ha・西洋梨 6ha・桜桃 7ha・柿 6ha・プラム 38ha
- ③ 開花：プラム 4/12、おうとう 4/14、もも 4/18、ナシ 4/21、ふじ 4/25、(巨峰 6/3、シャイン 6/8) \*平年並み～やや早い
- ④ 満開：プラム 4/15、もも 4/23、おうとう 4/24、ナシ 4/25、ふじ 4/27 \*平年比-2日程度。
- ⑤ 露地ぶどう開花予想：巨峰系 6/5 前後、シャイン 6/10 前後。生育差は3日程度と平年より小さい見込み。花振るいに警戒。
- ⑥ 収穫開始予想：おうとう佐藤錦 6/15、プラム大石早生 6/30、もも赤宝 7/15、あかつき 7/25、なつっこ 8/8、川中島白桃 8/20
- ⑦ 雪害：R3 年末からの降雪により、長丘地区山手、柳沢、田上、岩井地区のりんご・もも等で枝折れ散見。  
ぶどう棚倒壊・損傷等約 50 件あり。
- ⑧ 獣害：日野、長丘、科野、倭地区地区中心に、猪・鹿による果樹園地への被害が多発。(猪：園内、土手を荒らされる。鹿：りんご等の主幹表皮・芽を食害)
- ⑨ 凍害：冬季の低温により、モモなどで樹体枯死、枝単位の枯れ込みが散見される。また、落花後の樹勢衰弱も散見される。
- ⑩ 凍霜害：4/17 の低温により、りんご・梨などで花器異常が確認された。
- ⑪ ハウス
  - ◆ サクランボ：被覆計画棟数 20 棟。被覆棟数 20 棟 (昨年 20 棟)。 モモ：1 棟。プラム：1 棟。
  - ◆ 積雪量多く、燃油価格も高騰していることから例年よりも被覆が遅れたハウスが多い。
  - ◆ 出荷開始：サクランボ 4/3～。モモ 5/5～。プラム 5/26～。
  - ◆ ぶどう：計画 130 棟・30ha。シャインピーク 7月下旬～8月上旬頃。地温が平年より大幅に低かったため、加温～発芽期に入るまでは平年より時間を要した。縮葉症、マンガン欠乏等発生あり。全体には生育は順調。初出荷 4/27 (パープル・種なし巨峰・ブラックビート約 132 kg分)。
- ⑫ 防除ポイント
  - ◆ 黒とう病：展葉 5 枚目までの初期発生は見られない。感染拡大期の梅雨以降の防除徹底がポイント。
  - ◆ 黒星病：5月13-14日降水量 29mm、気温 17°C 前後。黒星病感染が心配される。5月下旬 (梅雨前) まで防除徹底。
  - ◆ せん孔病：5月上旬頃～春型枝病斑を確認。6月中下旬 (梅雨明け前) までの防除徹底による密度抑制+せん孔細菌罹病枝の切除。
  - ◆ もも縮葉病：5月上旬から葉に病斑を確認。(薬剤がかかりづらい枝 (樹の先端)、休眠期防除が遅れた園地)
  - ◆ プラム スモモヒメシンクイ：5月上旬から越冬世代発生。発生数の増加は昨年よりも1週間程度早い。防除徹底。
  - ◆ プラム ふくろみ病：5月上旬から大石早生・菅野中生などで散見される。(薬剤がかかりづらい枝、休眠期散布遅れた園地)
  - ◆ カメムシ類：5月中旬頃から、カメムシによる果実・葉への被害が散見される。(もも中心)
  - ◆ ケムシ類 (マイマイガ)：5月中旬頃から、山際の園地中心にマイマイガの発生が散見される。